



koryo 陵 雲 High School

〒081-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号 / 電話 0178-44-3866 / FAX 0178-43-9077
https://koryo-high-school.com / E-Mail koryo@chibagakuen.ac.jp

令和4年度 親子で聞く講演会

『被爆ピアノに学ぶ命の大切さと平和について』

10月25日(火)、親子で聞く講演会が行われた。今回のテーマは『被爆ピアノに学ぶ命の大切さと平和について』で、被爆ピアノの伝道師・矢川光則さんをお迎えし平和教育を行った。ピアノ調律師で被爆二世でもある矢川さんは、「被爆ピアノ」(爆心地から3キロ圏内で無数のガラス片が突き刺さり、傷だらけになりながらも奇跡的に残ったピアノのこと)を保存・管理しながら、今もなお原爆の惨禍を知る「生き証人」として、自ら運転するトラックで全国を回っている。核兵器の悲惨さや戦争の愚かさ、平和の尊さを訴えるためである。会場に集まった生徒、保護者たちは、戦禍に耐えたピアノの音色、絵本の読み聞かせ、軽音楽部やバトン演技とピアノ演奏のコーラホレーションを見聞きし、平和への思いを強くした。最後は、梅内拓真君(3年・名川中学校出身)が「被爆ピアノの音色の美しさに感動しました。唯一の被爆国で、今現在平和な日本で暮らす自分たちが、戦争のない世の中が続くよう戦争の悲惨さを伝えていきたいです。今日はありがとうございました」と感謝の気持ちを述べ、矢川さんに千羽鶴を贈呈した。講演終了後、被爆ピアノに触れた生徒たちは、美しい調べに「平和」を感じていった。



あなたにとって大事な人ほどすぐそばにいる
～自分の命も他人の命も大切に、誰もが誰かの大切な人～

講演会プログラム・講師
一 太鼓部によるウエルカム太鼓演奏
一 矢川光則さんによる被爆ピアノコンサート講話
一 命を大切にしよう、是川保園理事長中村陽君さんによる絵本読み聞かせ
一 八戸学院大学短期大学部中嶋孝子准教授、同1年生若原加歩さん(本校OG・白根中学校出身)によるピアノ演奏、バトン演技
一 軽音楽部と八戸学院大学短期大学部中嶋孝子准教授によるピアノ演奏のコーラホレーション



▲『小さな恋のうた』を演奏する軽音楽部

講演後、実際に被爆ピアノに触れてみました。普通のピアノより音が高く澄んでいるような気がしました。まるで、幸福、平和を願う気持ちがあふれてくるような音色でした。被爆ピアノの素晴らしさを、世界中の子供たちに知ってほしいと思いました。今回の講演会は、平和についても勉強になりました。これからも被爆ピアノのことが伝わって行くことを願います。

2年 工藤 珠紀(下長中学校出身)
被爆ピアノは本当に音が出るのかと思いましたが、優しく綺麗な音色に驚きました。絵本の読み聞かせの内容とピアノの響きが相まって感動しました。ピアノの音で伝わるものがたくさんあると思います。日本はもちろん海外でももっと知られるべきだと思います。

2年 前田 七海(第三中学校出身)
講演を聞いて改めて、原爆の残酷さや平和について考えることができました。特に印象に残ったことは二つあります。一つ目は、被爆ピアノについてです。私は被爆ピアノについて聞いたことがなかったし、今回のような機会がなければ知ることがなかったかもしれないと思いました。ピアノは200本位ある弦のうち直したのは4本で、音は当時のままと聞き、とても大切にされたピアノだと感じました。二つ目は、絵本の読み聞かせです。絵本は、小さい子が読むイメージでしたが、黒い背景のところや赤い背景に人がいるところ、最後お兄さんにお弁当を渡せず膝に載せているところなど、怖くて、考えさせられる部分がたくさんありました。私は、読み聞かせで恐怖を感じたけれど、実際に原爆を体験した人はどれほど怖かったのか想像が及びません。今回、こうしてお話を聞くことができたのは貴重な体験でした。今の日本は平和です。そう思うのは、今まで原爆の怖さを伝えられてきたからだと思います。当たり前の生活を当たり前と思わず生活していきたいです。

10月16日(日)、八戸青年会議所が八戸市立美術館で開催した「未来創造作戦!〜XX年後へのタイムカプセル〜」に3年生の小笠原智也君(市川中学校出身)、伊藤みんとさん(白山台中学校出身)の2名が参加した。このイベントは、市内の中高生たちが、地域の課題を洗い出し、解決方法を考えるというもの。当日、参加したのは市内の中生8校30人。集まった学生たちで「理想のまちにするためには!?!」というテーマについて年代の

自分たちが考える未来

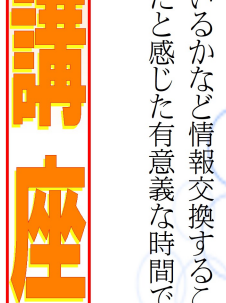
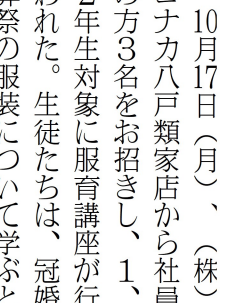
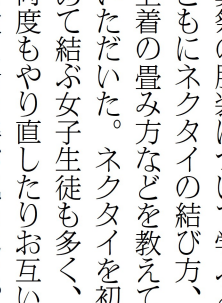
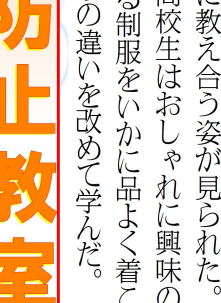
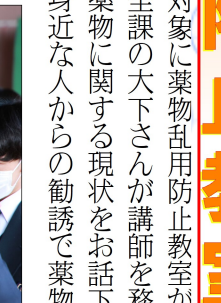
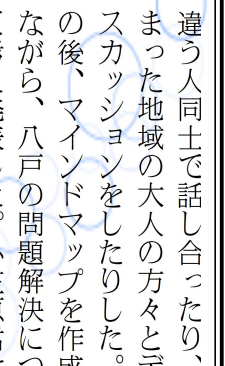
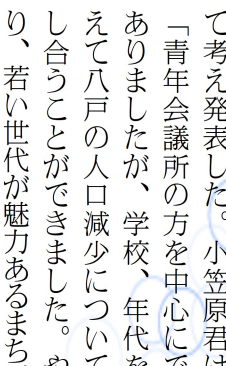
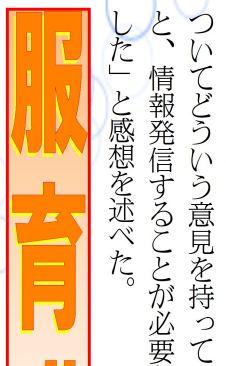
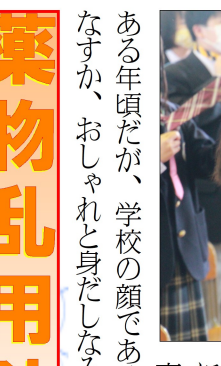
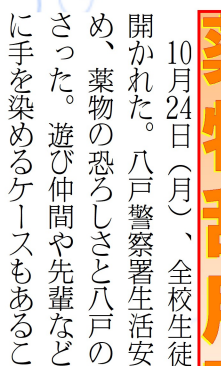
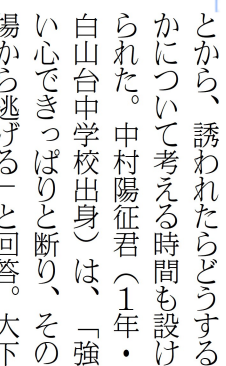
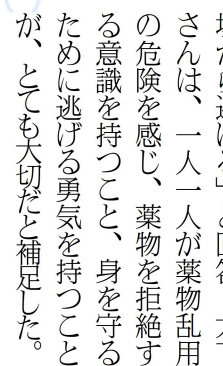
違う人同士で話し合ったり、集まった地域の大人の方々とディスカッションをしたりした。その後、マインドマップを作成しながら、八戸の問題解決について考え発表した。小笠原君は、「青年会議所の方を中心にはありませんが、学校、年代を超えて八戸の人口減少について話し合うことができました。やはり、若い世代が魅力あるまちづくりでありたい。地元についてどういった意見を持っているかなど情報交換すること、情報発信することが必要だと感じた有意義な時間でした」と感想を述べた。

服育講座

10月17日(月)、(株)コナカ八戸類家から社員の方3名をお招きし、1、2年生対象に服育講座が行われた。生徒たちは、冠婚葬祭の服装について学ぶとともにネクタイの結び方、上着の畳み方などを教えていただいた。ネクタイを初めて結ぶ女子生徒も多く、何度もやり直したりお互いに教え合う姿が見られた。高校生はおしゃれに興味のある年頃だが、学校の顔である制服をいかに品よく着こなすか、おしゃれと身だしなみの違いを改めて学んだ。

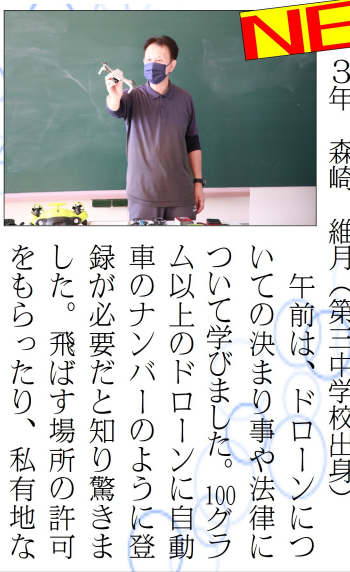
薬物乱用防止教室

10月24日(月)、全校生徒対象に薬物乱用防止教室が開かれた。八戸警察署生活安全課の山下さんが講師を務めた。遊び仲間や先輩など身近な人からの勧誘で薬物に手を染めるケースもあることから、誘われたらどうするかについて考える時間も設けられた。中村陽征君(1年・白山台中学校出身)は、「強心できっぱりと断り、その場から逃げる」と回答。山下さんは、「一人一人が薬物乱用の危険を感じ、薬物を拒絶する意識を持つこと、身を守るために逃げる勇気を持つことが、とても大切だと補足した。」



10月27日(木) 表現活動講座

NEW 3年 ドローンコース



3年 森崎 維月(第三中学校出身)
 午前は、ドローンについての決まり事や法律について学びました。100グラム以上のドローンに自動車のナンバーのように登録が必要だと知り驚きました。飛ばす場所の許可をもらったり、私有地なら何も必要ないと思っていたので勉強になりました。また、150メートル以上の飛行や人口密集地では、たとえ広い場所でも許可を取らなければならないということや航空局へ申請が必要だということを知り、少し面倒だと思ったりもしました。ドローンには、動画撮影のドローン、監視用のドローン、災害時に赤外線を使って遭難者を見つけるドローンなど様々な種類があるのを知ることができました。水中ドローンも見せてもらいました。実際に見たことがなかったので嬉しかったです。十和田湖、青葉湖、水中の映像を見せてもらいましたが、どれもこれも映像の美しさには驚かされました。午後は、実技でした。最初は乱れたり、感覚が難しかったけれど、操作していくうちに慣れていきました。最後は、皆で撮影してもらい鑑賞しました。初めてのことで、かなりでしたが、天気も良く、楽しく活動できました。100グラム以下のドローンは、初心者向けだと聞いたので買ってみようかと思えます。



3年 成田 孝輝(三沢第一中学校出身)
 最初、ドローンは様々な場所で自由に飛ばせると思っていたが、室内で飛ばす分には問題はないけれど、外で飛ばす場合は許可が必要になることを知りました。その他、重さによ

よって規定や呼び方が変わること、ルール、法律について学びました。ただ、私には話の内容が複雑すぎて全部理解することができませんでした。でも操作は楽しかったです。

3年 大村 若菜(鯉中学校出身)
 ドローンの操作だけでなく、操作する上で法律や知識を教えてもらいました。講師の方のお話を聞き、ドローンは、たくさんの方ができる可能性を秘めたものだと思います。実技では、スピードの微調整に苦戦し危なっかしい動きになりましたが、講師の方からゆっくりとレバーを引くようアドバイスを受け、おかげで上昇、下降、ホバリングなどの基本の動きはできるようになりました。最後は、グラウンドで撮影してもらいました。超短時間で編集してもらった映像は、クオリティーが高く技術に驚きました。普段見ることでできない視点からの映像には、思わず「凄い」と声が出ました。

3年 大羽沢 洗希(北稜中学校出身)
 「ドローン」は雄の蜂の羽の名称だと教えてもらいました。意識してドローンの音を聞くこと確かに蜂のような音に聞こえました。私は、ドローン操作の経験があったので簡単だろうと思いましたが、やってみると思うようにできませんでした。

3年 前村 愛梨(北稜中学校出身)
 私は、ダンス未経験で基本的な動きもわからず、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、講師のお2人がわかりやすく、一人一人に場を盛り上げてくれるように指導して下さい、すぐに不安は解消しました。休憩時間も先生から話しかけて下さり、踊れないところやわからないところを丁寧に解説して下さいました。それでも、どうしても踊れないステップがあり、友人と昼休みにたくさん練習をしました。お互いに「こうした方がいい」と教え

合い、皆の苦手な部分やどうやら上手に見えるかを話し合いました。午後にはYouTubeの撮影に向け、ダンスの完成までひたすら踊りました。道線を決めると動ける範囲が狭くなり、思うように動けなかったり、隣の人とぶつかったりとアクシデントも多々あり、とても大変でした。お互い気を遣いながら踊ると振りが飛んでしまったり恥ずかしかったです。最後に多少のミスはあったものの、一発撮りで終わって気持ち良かったです。最後の講座でしたが、体をたくさん動かして講師の方とたくさん話して悔いのない思い出になりました。



1年 阿部 美佳(是川中学校出身)
 よさこいの歴史も教えていただき、「ヨッシャ来い」を踊りました。鳴子を持って踊るのは保育園の時以来でした。最初は難しく踊りにくかったですが、何度か練習を繰り返すと踊れるようになりました。最後は楽しく踊ることができました。講師の方々の踊りが格好良かったです。

1年 菱事 弘季(階上中学校出身)
 北海道の伝統的なよさこいをやりました。最初に講師の方からお手本を見せていただきました。簡単にできるだろうと思って臨みましたが、結構難しかったです。でも一つ一つ丁寧に教えてもらい徐々にできるようになっていきました。ただ、一つだけ時間がなかったのがダンス要素のヒップホップを使った部分です。この部分にかなりの時間を要しまし

た。覚えた時は嬉しかったです。最後に、クラスでの発表となりました。恥ずかしかったですが、息も合っておりやすかったです。

1年 甲斐 弥風(さいたま市立幸栄中学校出身)
 最初は、「ジャグリング」とは何だろうと思っていました。何種類かある道具で空中でキャッチしたり魅せる技だと知り、練習しました。やってみると難しかったです。先生からは、「回数を意識するより、今できる範囲のことを何回も繰り返し練習すること」とアドバイスしてもらいました。その通り練習すると2時間程度でマスターすることができました。

「カスケード」と「リバース・カスケード」をマスターしました。

2年 山家 昌悟(平塚市立土沢中学校出身)
 最初は、マジシャンの司天成さんがいきなりマジックを見せてくれました。テレビでよく見るコインマジックや全く見たことのないマジックまで見せてくれ、とても面白く講座がより楽しくなりました。初めに教わったマジックは、輪ゴムを二つ使い、絡めたものを一瞬でほどくというものです。初めは難しそうに見える、できなかったけれど、コツを教わるとすぐにできるようになりました。他にも約5種類ほどのマジックを教わり、全てできるようになりました。しかし、それを相手に上手く見せるのが難しく、マジックは演習もとても難しく、最後に発表した時も説明

がなかなかできなくて苦しみ、改めて説明する力が大事だと思いました。マジックを教わることは、あまりないのでもっていい経験になりました。

1年 下沢 南々実(是川中学校出身)
 太極拳に初めてチャレンジしました。太極拳は、動きがゆったりとしているので最初は簡単そうに見えました。しかし、意外と疲れるし集中力が必要です。激しく動いていないのにかなり疲れました。教えてくれた先生は優しく丁寧で、わかりやすかったです。やったことがないことにチャレンジするのは、面白くて楽しいので、これからも新しいことにチャレンジしてみたいです。

ドローンで撮影の様子。撮影した動画はHPから見ることが可能です。

ダンスコース

よさこいコース

マジックコース

ジャグリングコース

太極拳コース